

経済学科 ディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP) 及びアセスメント・ポリシー

DP		CP 編成方針	アセスメント・ポリシー	
第一層	A	幅広い教養と専門的知識・技能を身に付けている。	卒業認定・学位授与の方針に示す質的水準の達成状況である学生の学修成果としての各資質・能力については、下表に定めるとおり、各授業科目の到達目標に対する学修者の到達度について実施されるDP観点別評価の結果を集約するとともに、本学が定める大学の学修マップに示す各種調査などを必要に応じて用いることにより、その修得状況を把握し可視化する。 また、本学科の教育内容・活動については、把握・可視化した学修成果をふまえ、アセスメントマップに示す各種調査などを用いることで、多角的に検証する。 その検証結果は、自己点検・評価活動やFD活動において、本学科の教育改革・改善に資するよう活用する。	
	B	学びと研究の質を高めることができる思考力・判断力・表現力等を幅広く身に付けている。		
	C	地域社会及び国内外の諸課題の解決に主体的・創造的に参画・貢献することができる。		
	D	自己の成長と社会の発展のために、自立的に学び続ける態度を身に付けている。		
第二層 (共通科目)			学修成果を測定する方法	主な科目
	A-1	幅広い学問領域の基本的な概念や理論を修得し、教養としての知識・技能を身に付けることで、社会現象を多面的に理解することができる。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「知識・技能」の学修成果を測定する。	教養科目
	B-1	学びや研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を獲得し、幅広い領域に活用することができる。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「思考力・判断力・表現力等」の学修成果を測定するとともに、外部検定試験や外部アセスメントテストの結果も活用する。	外国語 データアナリシス スタティクス ヘルスリテラシー
	C-1	修得した資質・能力を主体的に活用し、多様な人々と協働しながら実際の課題に取り組み、創造的に課題解決に向かうことができる。	各科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「総合的な学修経験・創造性」の学修成果を測定する。	ライフデザイン応用
D-1	社会的課題やそれに対する学習・研究を通して、我々の生き方の指針を深く考え、自立的に真理を探究し続けることができる。	ライフデザイン領域を設け、生き方の指針および学び続ける態度を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト、研究発表等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「態度・志向性」の学修成果を測定する。	キリスト教学 ライフデザインの基礎 西南学院史
第二層 (専攻科目)			A	経済学の理論、歴史、国際事情をめぐる各科目における小テスト、期末課題等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して経済学的思考法の「知識・技能」の学修成果を測定する。
	A-2	経済理論と実証分析の基礎を理解し、市場の役割と限界や数量的分析の有用性を認識できる。	経済理論および数量分析の基礎的知識の習得度について、主に量的評価、総括的評価を中心とした小テスト、期末課題等によって、その学修成果を測定する。	経済数学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ、ミクロ経済学Ⅰ、経済学入門
	A-3	経済政策や経済史、応用経済学の基礎を理解し、現実経済・社会の実態を多面的に把握できる。	経済政策、経済史、応用経済学について、歴史と現在の経済問題についての理解度を測定するにあたり質的評価、総括的評価を中心とした小テスト、期末課題等によって、その学修成果を測定する。	日本経済史、西洋経済史、国際経済学、経済思想史、経済地理、世界と日本の経済
	A-4	経済学分野及び隣接する分野の知識と技能を、適切に獲得・活用することができる。	経済関係の語学科目において、専門的語学力について会話、和訳等の実演による質的評価、形成的評価を行い、量的・総括的評価のための小テストや期末課題等と併せて評価する。国際経済学関係の講義科目においては、質的評価、総括的評価を中心とした小テスト、期末課題等を活用して学修成果を測定する。	時事英語Ⅰ・Ⅱ、経済英語Ⅰ・Ⅱ、世界経済論
			B	高度な経済学の知識、データ処理をめぐる各科目における小テスト、期末課題等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して経済学をめぐる「思考力・判断力・表現力等」の学修成果を測定する。
	B-2	より高度な経済理論を用いて、現実の社会経済を分析する能力を養うために、中級以上の理論経済学科目と、財政・金融・環境・産業・労働・社会保障等の応用経済学科目を、それぞれ3年次を中心に配置する。	より高度な経済理論とその応用をめぐる各科目において、理論的思考力、数学的思考力等について量的評価、総括的評価を中心とした小テストや期末課題等を用い、学修成果を測定する。	経済数学Ⅱ、マクロ経済学Ⅱ、ミクロ経済学Ⅱ、環境政策、労働政策、産業組織論
	B-3	データを科学的に分析し、先入観にとらわれずに客観的な結論を導き出し、自分の考えを表現することができる。	経済データの収集方法、活用と加工、意義の考察に関する情報処理技術を養成するために、課題理解や技術向上度合いについてPC等を活用した形成的、量的評価を行い、総括的、量的評価のための小テスト、期末課題等と併せて測定する。	計量経済学Ⅰ・Ⅱ、基礎統計学、統計学総論、経済データ分析実習Ⅰ・Ⅱ
			C	演習、実習科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して能動的・主体的な学びにおける「総合的な学修経験・創造性」を測定する。
C-2	経済社会の諸問題を理解し、経済学的な視点で実践的解決法を見出すことができる。	経済学的な視点を学びながら、少人数で様々なテーマについて協力して研究を行う場であり、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を鍛える演習科目を、1年次より配置する。	演習・実習科目においては、グループワークの能動性、取り組みの姿勢について実演を中心とした形成的評価を行う。マクロ・ミクロ実習等においては、量的評価、形成的評価を中心とした小テストや期末課題等によって学修成果を測定する。	基礎演習Ⅰ・Ⅱ、まちづくり・ひとづくり実習、マクロ経済学実習、ミクロ経済学実習
		D	演習やキャリア関係科目における課題提出、研究発表、議論参加によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して専門的な学びの深さをめぐる「態度・志向性」を測定する。キャリア関係の科目では、外部試験の成果も活用する。	
D-2	経済社会の変化に適切に対応するため、経済学等の理解を通じて今後の見通しを立てることができる。	経済学の実践的な知識と応用力を身に付け、世界の中での日本経済の諸課題を解決するための演習科目等を、3年次を中心に配置する。	演習Ⅰ・Ⅱにおいては、研究課題の専門性・問題意識について、報告・討論等の実演をめぐる形成的評価に加え、知識の深さと専門的スキルについて、質的評価、包括的評価のための小論文、期末課題等で評価する。卒業研究においては、先行研究の精査や学問的意味をふまえた卒業論文で質的評価、総括的評価を行う。キャリアのための資格については、外部試験の成果を活用する。	演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文、金融・ファイナンス実習、キャリアのための資格